

漢字は書けなくても読めれば好い

文字の学習は、明治以来、「読み書き同時教育」で進められて来ました。然し、読むことは容易に出来るやうになりますが、書くことは容易に出来るものではありません。だから、読みと書きとを同時に求めるのは、そもそも無理といふものです。

学習したばかりの漢字は、読めてもその字形は大まかな印象に過ぎません。それを書かせるのですから、一点一画ごとに手本の字と見比べながら書かなければなりません。このやうな学習では、時間ばかり掛けて、効果はその割に挙げません。

それよりも、書かせるだけの時間を、反復して読む学習に代へた方が有効です。読む学習を重ねてみれば、漢字の字形が自然と頭の中に鮮明になって行きますから、さうなってから書く学習に移れば、僅かの練習で容易に美しく正しく書けるやうになります。

自転車の子供に与へて、「即刻乗れるやうにきなさい」と言はれたって出来るものではありませんが、自転車を与へて放って置いたら、誰だっていつとも無しに乗れるやうになってあるでせう。

漢字だって同じ事です。「明日までに出来るやうにきなさい」と言ふからいけないのです。沢山の漢字を使へるだけ使って見せて、子供たち

がそれをひとりで覚えるのを待ってみれば好いのです。子供たちが「覚えよう」といふ気も無しにひとりで覚えるのに任せて置けば好いのです。

早く覚えることを子供に求めますと、子供はきっと漢字嫌ひになります。子供は嫌ひなものは必ず拒否します。さうなったら失敗です。早く覚える必要などありません。「卒業するまでの間に覚えてくれたら結構」といふ気持でみれば好いのです。

私たちの日常生活には、文字を読む機会は限りも無いほど沢山ありますが、書く機会は極めて少ないものです。電気製品一つ購入しても、説明書を読んでそれを理解しない事には、危険で使ふことも出来ません。

このやうに、現代の生活では読む必要度は非常に高いですけれども、文字を書くといふ機会は極めて稀ですから、「読める漢字は皆書けなければいけない」といふ、今の漢字教育の在り方は誤ってゐる、と言はざるを得ません。

これからは、益々ワープロが普及して、漢字を手書きするのは、自分の住所、氏名位になりさうです。最近、機械に向って話せば、それが漢字かな混り文になって出て来る、といふ機械も出来たと聞いてみます。

かういふ時代に、漢字の一点一画をひどく喧しく言ったり、筆順を極

端に厳しく言ったりして、徒らに子供を苦しめるのは、時代錯誤と言ふしかありません。漢字は読むことが基本です。そして、読めさへすれば生活上は事足りるのです。読めないと、生活上困ることが毎日沢山出て来るでせうが、書けなければ困るといふ事はまづ無いと思ひます。もし有ったとしたら、辞書で調べれば済みます。